



令和7年度対日理解促進交流プログラム
「J E N E S Y S 2 0 2 5 P a r t 1」
及び「J E N E S Y S 2 0 2 5 P a r t 2」
(対象国：太平洋島嶼国、豪州、ニュージーランド)

派遣プログラム報告書



実施団体：一般社団法人国際協力サポーターズ・株式会社日本旅行 共同企業体

1. プログラム概要

【目的・概要】

日本の学生が太平洋島嶼国を訪問する派遣プログラムでは、過去訪問歴がなく、派遣テーマである『気候変動と防災』に関する視察地として適当な国としてトンガが選定されました。またフライトスケジュールの影響から、トンガに加えて経由地であるフィジーでも活動を行い、計9泊12日（2026年2月7日～17日）としました。

参加学生は、太平洋島嶼国・日本地方自治体ネットワーク（PALM&G）に参加している北海道、福島県、兵庫県、福岡県、沖縄県から計7名、JENESYSにこれまで協力いただいている大学から3名、計10名の大学生・大学院生で構成され、トンガ・フィジーそれぞれにてODA関連機関やプロジェクトサイトの視察訪問や、現地の学生・地域の人々との交流の他、歴史や文化に関する理解と知見を深め、各々関心のあった体験やテーマについてSNSを通じて对外発信を行いました。

また報告会では、各々が両国訪問で学んだことを発表した他、継続的に太平洋島嶼国とつながることを目的に、帰国後に取り組むアクションプラン（活動計画）についての提案もありました。

【参加人数】

学生：10名

引率：2名（実施団体同行者）＋トンガ・フィジー各国現地添乗員1名

【訪問地】

トンガ王国トンガタプ島（ヌクアロファ、バイトンゴ、ニウトウア、ナコロ）

フィジー共和国ビチレブ島（スバ、シンガトカ、ナウソリ）

2. 実施日程・活動内容

【実施日程・内容】

<プレ・プログラム>

プレ・プログラム 実施日	2026 年 1 月 7 日 (水) 19:00-21:00	2026 年 1 月 27 日 (火) 19:00-21:30
実施形態	オンライン (Teams)	
プログラム内容	●プログラム概要説明 ●自己紹介 ●派遣国事情 (トンガ・フィジー) ●JENSYS 派遣同窓組織 紹介	●外務省挨拶 ●プログラム詳細説明 ●健康・安全情報 ●派遣前最終確認事項 (日本文化紹介内容等)

<派遣プログラム>

2 月 7 日 (土)

- ・日本出国

2 月 8 日 (日)

- ・フィジー入国
- ・【訪問】シンガトカ砂丘国立公園植林体験 (オイスカ研修センター)

2 月 9 日 (月)

- ・フィジー出国、トンガ入国
- ・【表敬訪問】在トンガ日本国大使館

2 月 10 日 (火)

- ・【講義】太平洋島嶼国での防災支援 (東洋大学 松丸亮教授)
- ・【表敬訪問】JICA トンガ支所
- ・【訪問】ODA 視察及び JICA 海外協力隊活動 (トンガ国営放送局 (TBC))

2 月 11 日 (水)

- ・【学校交流】USP トンガ校
- ・【訪問】ODA 視察 (MEIDECC 防災用倉庫、可倒式風力発電)
- ・【文化体験】ディナーショー見学

2 月 12 日 (木)

- ・【文化体験】工芸品づくり (タパの絵付け、または、ボーンカービング)

- ・【訪問】トンガタプ島ツアー（津波ロック、フンガ・トンガ噴火被災者等）

2月13日（金）

- ・【報告】【交流】中間報告会（USP トンガ校）

- ・トンガ出国、フィジー再入国

2月14日（土）

- ・【文化体験】【交流】ホームビジット（サワニ村）

2月15日（日）

- ・【文化体験】【歴史理解】教会ミサ、フィジー博物館

2月16日（月）

- ・【表敬訪問】JICA フィジー事務所

- ・【訪問】JICA 海外協力隊活動（農作物加工-コロニビア研究ステーション）

2月17日（火）

- ・【学校交流】【報告】USP フィジー本校

- ・フィジー出国

2月18日（水）

- ・日本帰国、解散

（2月20日（金））

- ・【報告】活動報告（JENESYS フォローアップ事業「学生会議」）

3. 記録写真



2/9【表敬訪問】在トンガ日本国大使館
(稲垣大使)表敬訪問



2/10【講義(トンガ)】
太平洋島嶼国での防災の取組



2/10【ODA 視察(トンガ)】
トンガ国营放送局 (TBC)



2/11【交流(トンガ)】USP トンガ校の
学生に日本文化紹介(お箸の使い方)



2/11【ODA 視察(トンガ)】
可倒式風車の補修法をヒヤリング



2/12【意見交換(トンガ)】
2022 年のフンガ・トンガ噴火の被災者と



2/13 【中間報告(トンガ)】 @USP トンガ校



2/14 【文化体験(フィジー)】 ホームビジット
(サワニ村)



2/16 【講義(フィジー)】 日本と太平洋島嶼国
の関係性について(JICA フィジー事務所)



2/16 【視察(フィジー)】 JICA 海外協力隊
(食品加工)の活動地訪問



2/17 【意見交換・交流(フィジー)】
JENESYS 招へい事業経験者と意見交換



2/17 【意見交換・交流(フィジー)】
USP 本校にて活動報告と意見交換

4. 参加者の声（抜粋）

- 参加者①

各訪問先において資料を閲覧するだけでなく、日本語・英語を問わず積極的に質問する機会をいただけたことは、大変貴重な経験でした。参加者それぞれが異なる専攻分野を持っていたため、多角的な視点から議論が展開され、毎回新たな発見がありました。単なる視察ではなく、対話を通じた学びであったことが本プログラムの大きな価値であったと感じています。

- 参加者②

本事業を通じ、JICA 職員の方々、現地スタッフ、大使館関係者など、世界を舞台に活躍する皆様と対話できたことは、私にとって何物にも代えがたい財産となりました。「誰かのために、より良い世界のために」という共通の想いをもちつつ、一人ひとりが全く異なるキャリアパスを経て今の場所に立たれている姿に、深い感銘を受けました。皆様の姿を拝見し、「自分も世界のために何か役に立ちたい」「自分にもできることが必ずあるはずだ」という強いモチベーションが芽生えました。

- 参加者③

現地で活躍されている日本の皆様が、現地の声に真摯に耳を傾け、支援の在り方を共に考えておられた姿勢が強く印象に残っています。それぞれの国には固有の文化や価値観があり、それらを尊重しながらともに未来を描いていく姿勢の重要性を実感いたしました。

- 参加者④

JICA や日本の ODA の支援を受けた活動の視察は非常に貴重な体験で、これまで抱いていた国際協力への印象が一変しました。トップダウン型の支援ではなく、JICA のように、ボトムアップ型の支援でかつ各コミュニティにローカライズする形で、コミュニティ、研究者、NGO、そして JICA などの国際支援機関と連携しながら、今後の自身の研究活動をおこなっていきたいと考えています。

- 参加者⑤

本プログラムに参加して、日本の素晴らしさ、他国の現状、そして何より自分自身の未熟さに気付かされました。また、1 人で SNS 発信を行なったのははじめてで、自分自身と向き合いながら追い込むことも経験できました。悔しさも達成感も全てをバネにして、自分の持っている世界より外にも目を向けることを大切に、これからたくさんの学びを得ていきたいと考えています。

- 参加者⑥

行く先々で現地であるからこそその実地の学びを得ることができたのは、とても大貴重な経験となり、今後の学業や生活でも考えていくような課題の種を得ることができました。全体的にプログラムを通して、未来につながるものを得られたように感じます。

- 参加者⑦

環境工学を専攻する者として、特に「現地の厳しい環境に適応した技術」と、それらを運用・補完する「地域コミュニティの力」の両面が重要であることを学びました。また、街中で交わされる挨拶や困った人への即座の対応などを随所に見て、フィジーの「ケレケレ（助け合い）の精神」や、トンガの強固な家族・地域コミュニティの絆といった、人間本来の温かさを感じることができました。

- 参加者⑧

今回のプログラム参加を通じて、もともと興味があったフィジーのみならず、太平洋島嶼国全体に興味がわきました。またフィジーだけをみても、不安定なインフラや開発プロジェクトの遅延、海外移住による熟練労働者や優秀な学生の流出など、すぐには解決できない様々な課題があることを知りました。

- 参加者⑨

全ての視察箇所を通し、日本の ODA 事業が相手国の自立支援にどのように繋がっているのかを知ることができ、遠い国の防災倉庫に日本が寄贈したボートやトラクター、物資があることで災害時に少しでも多くの人の生活を支えていることを嬉しく感じました。事業に関して事前学習として知っていた部分もありましたが、現地に視察することで職員の方々に直接質問して伺え、実際に働いている現場を見れたことで、日本の支援を体感することができました。私自身も大学で行政の方や地域住民と湿地保護に参加させて頂いているが、今回の訪問先での知見を活かし、これから大学でも SNS でも活動が続けていきたいです。

- 福島大学 3 年

トンガやフィジーの人は本当に人が良く、どの場面でも私たちを温かく迎え入れてくれました。初めて会ったとしても、すぐに打ち解けて楽しい時間を過ごせる、これがこの 2 国の魅力であると強く感じました。今回の経験から、言語でコミュニケーションを取ることも大事ではあるが、その国の文化や現状を肌で感じることの大切さを感じました。私はラグビーで国を盛り上げられる人材になりたいと考えているため、この経験を今後の私のキャリアに活かしていこうと思っています。

5. 参加者の対外発信 (Instagram、Facebook より抜粋)

フィールドアクティビティ（植林体験）の様子



ODA 視察を通しての学びや発見





jenecys_yukiha



jenecys_yukiha 日本が支援した風力発電機の可倒式風車。台風の多い沖縄の離島で使われているものを、ハリケーンの多いトンガにも応用させてあります。2枚羽の風車でとても静かでした！

6週間前



Akira Matsuo

2月18日 · 🌐



In the same day, we visited MEIDCC warehouse that covers a bunch of goods and devices for emergency.

There another JICA volunteer from Kochi has been working with MEIDECC, and we had discussion on disaster prevention with her.

It was a great opportunity to visit the actual warehouse with excellent JICA volunteer.

#JENESYS2025



yukino_jenesys25



yukino_jenesys25 フィジー編LASTはJICAの取り組み紹介🇫🇯👏

Bula!

青年海外協力隊で支援されている、フィジーの農業省管轄の研究所を訪問させていただきました🙏

日本で人気の職種の一つでもある食品開発。そのノウハウをフィジーに伝えている方がいらっしゃいます👏

同じ時期に同じ作物がたくさんできてしまう、そんなフィジーの課題を解決するべく、作物の加工による製品開発が注目されています👏

芋けんぴや芋パウダーを使ったパンケーキなど、日本では身近な料理の数々がフィジーで流行る日も遠くはないかもしれません！



現地学生との交流や文化理解の促進



USPでお茶を紹介！みんな上手💡



jenesys2025_chamiq

...

USP students introduced us to traditional Tongan dances and handicrafts. It was wonderful to see how they make use of local food and leaves from their land in their culture and daily life.

In the afternoon, we visited the disaster preparedness warehouse and a wind power generation site managed by MEIDECC. We felt truly grateful to learn about the scale of Japan's support. At the same time, we couldn't help but feel that many people in Japan may not be aware of this kind of assistance. Even though my contribution may be small, I hope to help share these stories.

In the evening, we attended a dinner show. While enjoying a great buffet, we watched amazing performances. The contrast between the graceful, gentle dances by the women and the powerful, dynamic dances by the men was fascinating — we could have watched them forever!

#jenesys #jenesys2025 #tonqa #トンガ



ayaka_h19590129

...



ayaka_h19590129 Day 8

サワニ村を訪問しました。たくさんの貴重な経験をさせてもらいましたが、特に印象的だったのはカヴァをいただいたこと。そして同時に、観光産業についても深く考えるきっかけになりました。

大学で「コミュニティがどのように形成され、維持されるのか」を学んでいる私にとって、村での体験はとても興味深いものでした。村の人々はまるで一つの大きな家族のようで、強い絆を感じました。

5週間前



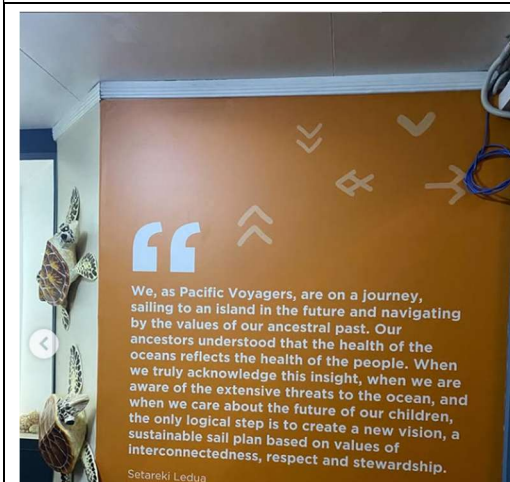
yukino_jenesys25、他5人が「いいね！」しました

2月22日



コメントを追加...

投稿する



yukino_jenesys25
Fiji Museum

...



yukino_jenesys25 フィジー博物館を訪問しましたFJ

沖縄に住んでいて、ハワイでも学びを得て、フィジー博物館でトドメを刺されたような感覚になりました(写真2枚目)。

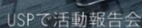
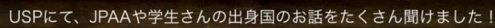
島の人たちにとって財産であるものは、自然も伝統もなんでも、先祖たちのノウハウがあったからこそ繋がれてきたもので、それをロジックや現代の摂理で片付けてはならないのだなと思います。

兵庫に住んでいた時は、自分が島の子だという感覚はあまりなかったように思います。外に出てみて分かったこと、大切にしていきたいし、大切にしたい人たちにシェアしていきたいと思っています。

Photo by @tknana_

#jenesys #jenesys2025 #フィジー #フィジー博物館 #海外留学

学びの報告や JENESYS 経験者との意見交換

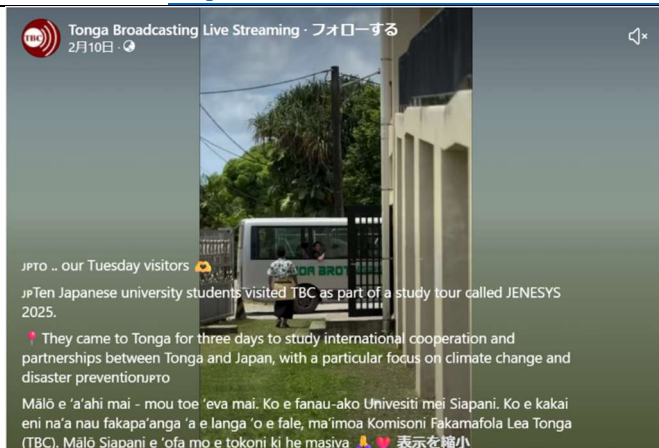


6. 受け入れ先による発信

トンガ国営放送局（公式 Facebook ページ）

訪問時の様子を動画にて撮影・編集してリール動画にて公開いただきました

<https://www.facebook.com/reel/4540966696133729>



JICA フィジー事務所（公式 Facebook）

JICA 海外協力隊員の活動視察の様子を紹介いただきました

[【JOCV's successful engagement with the JENESYS... - JICA Fiji Office | Facebook](#)



JICA Fiji Office

3月3日 13:50 · 🌐

【JOCV's successful engagement with the JENESYS study tour to Koronivia Research Station (Chemistry Laboratory)】

On 16 February 2026, Koronivia Research Station had the pleasure of welcoming a study tour group from Japan as part of the JENESYS 2025 Youth Exchange Program. The group of 12 participants, 10 of whom were university and graduate students, toured the Chemistry Laboratory and Food Development Unit, where they explored Fiji's ongoing work in agricultural research and food processing.

One of the highlights of the visit was the opportunity to observe the activities of Japan Overseas Cooperation Volunteer (JOCV) Mr. Ogata. The students gained firsthand insight into how volunteers from JICA contribute to strengthening Fiji's agricultural sector through capacity building, knowledge sharing, and daily collaboration with local experts.

[#JICAFijiOffice](#)

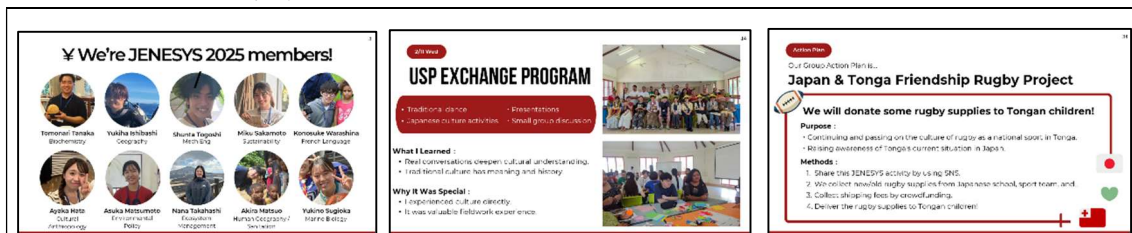
[#JENESYS2025](#)

[#KoroniviaResearchStation](#)



7. 報告会でのアクション・プラン発表

全1グループが発表



【学びと成果】

（文化的側面）

- トンガ王国にとって、ラグビーは単なるスポーツではなく、国民の誇りとアイデンティティの象徴であり、私たちとのコミュニケーションのツールにもなりました。
- 国際交流は、実際に人と人が交流して他文化を直接理解することで、新しい視点を得られるものだと実感しました。

（日本とのつながり）

- 日本からの支援は想像していた以上に多岐にわたり、インフラ整備や教育支援などさまざまな形で行われていました。
- （ODA を活用して）寄贈された機材や物資がどのように使用・維持されているかを現地企業と継続的に協力して確認していくことが、トンガと日本双方の責任を確保し、トンガの経済発展や人々の日常生活の安定に寄与するとともに、現地の国民性を尊重することにつながるのと感じました。

【アクション・プラン】

- グループ全員で取り組むアクション・プラン

『トンガ・日本 ラグビー友好プロジェクト』…トンガの子どもたちにラグビー用品を寄贈するプロジェクト。JENESYS プログラムについて SNS で情報を発信し、日本の学校やスポーツチーム、その他の団体からラグビー用品を集めて輸送します。また、輸送コストについてはクラウドファンディングを行い、支援を募ります。

- 個々人で取り組むアクション・プラン

- ・ SNS 発信を継続的に行い、日本とトンガ、フィジーに関する情報を共有する
- ・ 自身の学校やゼミ等で活動報告や太平洋島嶼国にかかるセミナーを開催する
- ・ 太平洋島嶼国の自然に関するワークショップを幼稚園児向けに実施する
- ・ サークルで発刊しているウェブニュースに今回の体験を寄稿する 等